

といちくだよい

1月号
January

発行責任者 / 鎌谷 一也 編集責任者 / 西村 京二 2009(平成21年)1月号 鳥取県畜産農業協同組合



12/11実施:若葉台小学校もちつき

年頭にあたり

代表理事組合長 鎌谷一也

明けましておめでとございます。新年を迎えご家族皆様が健やかに、良き年となることを心より祈念申し上げます。

昨年は、厳しい畜産環境を訴えるあたり、多くの生協の消費者の皆さんに次のように言ってきました。BSEのとき危機は、濁流の中で、皆が寄り添い、歯を食いしばって流されないようがんばればよかった。しかし、今の酪農の危機は、闇夜の海で幾日も幾日も続く漂流のような危機だ。お天道さんもみえず、陸地も見えない。全く先の見えない状態だ。乳価に占める所得得二五円が、減少する様は、月給二五万円が、一〇万円になり、そして一〇万円以下に…。七割減となる苦しさがあるだろうか。

二〇四五年続く危機。乳価下落から、生産調整その果てが、餌の暴騰でした。本当に、いかに生きのびるかが問われた昨年であり、組合員の皆さんの苦勞に本当に頭の下がる思いであります。やっと、三月からの乳価の引き上げ、そして餌の下落など、少し光明もみえてきたかに思われ、少々ホッとひと息です。

しかし、全体の情勢を考えると、環境が大きく変わってきています。ホッとできるどころか、酪農畜産だけでなく、社会経済全体が、何年かの漂流時代に突入し、より危機が深まったのかもかもしれません。

昨年を振り返りつつ、今年への心構えをしっかりと持っていきたいものです。

年頭の あいさつ

組合長年頭あいさつ(続き)

食への不振と不安、高まる

自給率への感心

昨年は、何が起つても不思議でない空恐ろしい時代になったと思いつつ、考え抜き、行動をし、そしてより深く考えるしかない、と決意したものです。

振り返れば、本当に多くの変化があり、時代の流れが急速に、急激に、変化していると言わざるを得ません。中国餃子問題は、単に食の安全の問題に止まらず、日本の食の自給率・食糧の安全保障の問題まで、国民の意識を喚起してきました。

とくに、世界でのエネルギー問題や投機市場の影響による、小麦大豆などの食用穀物市場の高騰、トウモロコシ等の飼料穀物の高騰による畜産危機など、その動きを加速させるものであります。

一方、食品に対する不安・不信については、米にもおよび、ミニマムアークセス米を中心にした、三笠フィーズによる汚染米問題、飛騨牛の偽装、うなぎ偽装、メラニンの混入等、これほどまでかといった深刻な状況をみせました。本当に、ここ数年続いている食に対する不信を全く反省していない、とでもいつべき事態でした。

耐性のない社会、

悪化がさらに悪化する循環

そして、秋以降はアメリカの金融危機に端を発した経済危機、いや恐慌ともいつべき、大不況の始まりです。昨年二兆円の利益を出したトヨタ自動車も、赤字に転落するなど、予測しない状況が生じてきています。

まさに、百年に一度の時代と言われていますが、本当に予測のつかない、そして従来の延長では、捕らえられない時代に突入してきました。

企業が生き延びるのに、人を人も思わず、どんどんリストラする動きが顕著です。経済全体がより縮小に向いかねない事態が生じています。本来であれば、社会も企業も、もつと耐性をもち、相互に助け合いながら、持ちこたえていくべき時代ですが、まるで手のひらを返したような、リストラと企業防衛です。全く耐性がありません。

こつした中、实体经济である農業はもちろぬ、生産製造加工を含めた産業がしっかりしなければ、国民や労働者は食べていけない時代かもしれないかもしれません。

鳥畜の一年は…

新しい役員体制での一年でしたが、畜産情勢を踏まえ、何ができたでしょうか。

自給粗飼料の生産体制の強化、組合員の経営支援対策、経産牛や子牛の購入、意思結集、政策要求と実現などの生産課題、また、消費者・生協への畜産に対する理解と支持の呼びかけ、産直の安定、畜産物の安定的な販売、そして人材育成や組織体制の強化など、多くの課題に取り組んでまいりましたが、思うように進んでいない課題もたくさんあります。

特徴的な点では、子会社美敷牧場の成績が向上したこと。東伯ミートやエフトップなどへの出荷が増加したこと。京都生協での四か月のキャンペーンとミニ懇談会などの開催で次への取り組みにつなげたこと。西部地域での組合員加入が増加することともに、子牛などの出荷が増加したこと。若い同志会などの仲間の活動が少し定着してきたこと。などがあげられます。

一方、美敷牧場、ソフトラクター、東伯ミートなど三年目を迎える組織としての事業や活動のあり方、さらに駅前市場からの撤退など店舗・テナント運営の強化の問題、京都でのインスタ対策、販売営業体制の強化、コソプライアンス体制の強化、人材育成、組合員の増加を踏まえた活動や結集のあり方、組合員以外の

畜産農家との連携など、より集中的な取り組みが必要な差し迫った課題も浮き彫りとなりました。

いずれにしても、〇八年で、初めて策定した鳥畜中期五カ年計画は終わります。新たな中期計画をどう立てるか、大きな課題です。

消費者に心える、社会や地域に広がる畜産事業を問い、持続をテーマに、生産と生活、そして生消双方の関係の持続的発展を、そのための循環型連携型のあり方を、議論できればと考えています。

当面としての、今年とは…

今年とは、従来の延長上で考えるべきでない、変動の年になるのではないかと思います。

何が起ころかわからないというよりも、どついつ時代にするかが、より強く問われてくる情勢です。従来の価値感や情性、しがらみに、捉われず、改めて、人間や社会、企業や職場、食や農村社会にとって何が必要か、その価値感が問われる年となると思います。

怒り悲しみと緊張感、怒りは原動力です。批判する力は変える力です。建設的な、積極的な批判力を養い、行動し、また考え行動する。

ただ、情勢が悪くなると、悪いことが重なるように、負の連鎖、悪循環に陥りがちです。事業や、企業活動は、外部的な事業活動や要因、さらには内部的な事業、業務人的な

関係など、より密接に絡み合っているため、それぞれの問題の要因と対策をキチッと整理し、負の連鎖を起さないように、気をつけなければと考えています。

徹底した「コストダウン」による

販売を、二割削減を目指す

ライフスタイルを

餌の高騰は一段落するものの、将来にわたり経営を維持継続する上でまた「コストダウン」する上で、やはり自給粗飼料の生産体制の強化、確立は焦眉の課題です。

とりわけ、皆で汗を流し、「コストダウン」直接出る経費を削減する一をどう図っていくか、が大切で

とくに、農畜産物の販売状況を展望すると、基本的には、売れていくら、消費者に食べて頂いてこそ、生産が持続できるといつ視点を、重視しなければならぬ情勢です。そのため、生産現場だけでなく、製造加工部門、販売管理部門、あらゆる分野での「コスト」の削減、ロス削減が大切となります。

消費者の皆さんへ「食べ続ける上で、生産者への理解と支持が必要、連携の強化が大切」と取り組みを強化する必要もあります。しかし、全体的には、厳しい経済環境を反映し、一層の「コスト」のダウン、低価格が求められる時代となつてき

ます。

贅沢な消費者であれば、より付加価値の高いものを追求して消費を求められることもできるでしょうが、今の状況は、まず食べることに、安定して食べつづけること、が求められそうです。

そうになると、生産者も、経営の持続を前提としつつ、より安価で安心できるものを提供する責任が問われてきます。

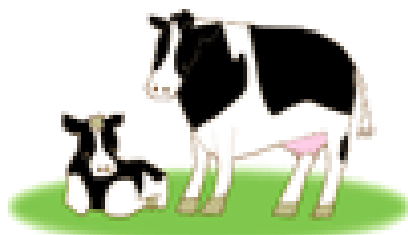
また、生産者や職員も生活者です。一〇年ほど前に「二割支出を削減するくらいか感覚で」と言っていました。これが、これからの生活スタイルとして、実際一五%を削減し、残りの一五%は、自分達の汗と知恵でカバーするぐらいのスタンスが求められてくるかもしれません。

政治情勢も混迷をしく、これまた見通しの立てにくい情勢にあります。が、消費者、生産者だけで解決できない構造上の問題もたくさんあります。

食や農業など、地域政策の問題を考えると、生産者、消費者が共同行動として、政策要求での解決の取り組みも必要になると思います。

ある旧町村では、農業センサスでの農業基幹従事者を見ると、六五歳以上が八一%、六十歳未満が一割といった深刻な状態にもなっています。耕作放棄地対策、担い手対策、そつした農村での耕畜連携対策や畜産の役割もますます重要となつていきます。

最後になりましたが、今年、干支は「牛」、そして二〇〇九年で「二九」(肉)の年です。精肉の業界や畜産業にとつてよりよい年であり、ますように、また、皆様のご健康を心よりお祈り致します。



新年明けまして

おめでとうございます。

代表理事副組合長 橋本寿和

今年是我们酪農家(五年)の年であり、又酪農、当組合にとり正念場の年と考えます。

私たちが、酪農、そして畜産農協を始めたきっかけは、夢は、目標は理念、理想は、そして、今現在の位まで来ているのか。

夢を成し遂げるために、何が必要で、何を整理しなければならぬか考え、足りないところは補充をし、進展に必要なところは知恵を、力を、更なる一歩を踏み出すためのエネルギーを注ぐべきと考えます。

益も正月もなく、牛と格闘し、又寄り添いながら共に一年が過ぎ更なる1年が始まります。この正月の初めに、今後に向けての戦略を立て、戦術を練り、年の始めの第一歩をどこにおろすか、考えても面白いと思います。
五年の健やかな年明けをお祈り申し上げます。

良い年になりますように

代表理事専務 西村京二

一人当たり平均購入額は前年の62822円に対し61377円と145円の減、パックあたりの平均額は17333円に対し260円減の1473円。これは私が昨年末に近所や知人に売った鳥畜だよりの肉の販売結果です。彼らはずっと付き合いで買ってくれていますし、購入者数はほとんど変わりません。

県内店舗でも京都でも牛肉が昨年より売れなくなりました。前述した結果を見ても同様のことが推察され、高いものは買わないという結果に改めて急速に冷え込んだ世相を感じました。

昨年は食の安心・安全に対する不祥事がこれでもかと続き、また、飼料の高騰、牛乳の消費低迷と苦しい状況が続いた年でしたが、終盤に至って世界的金融危機から新卒者の内定取り消し、派遣社員を筆頭に雇用の解除、金融機関の貸し渋りから資金繰り悪化による倒産と、前半の出来事を忘れさせてしまつようなニュースが席巻しました。

いよいよ、経済から気候まで何が起ころるか予測できない状況となってきましたが、今年こそ良い年になりますよう役員一同がんばりますので宜しくお願致します。組合員の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

新年明けまして

おめでとうございます。

(株)美敦牧場

代表取締役社長 長谷川正

昨年は多くの皆様に助けていただいた1年でした。この場をかりてお礼を申し上げます。美敦牧場としての目標でありました財務の改善も一歩前進する事が出来、黒字決算のめども立ちました。

就任当初を思い出すと組織としての美敦牧場は、本来の力を出し切れていないと感じました。職員各自は一生懸命仕事に取り組みながら、一方でダメな言い訳を考えているように感じました。

組織としての目標と各セクションのネットワーク構築を進めて来た事で後半になり少しずつ本来の力が出てきたように感じます。

本年も昨年以上の目標に向かってより一層の組合との連携の強化、生産、加工、販売を一つの流れと捉え、各自仕事に取り組んでいけるようがんばりますので、今後とも皆さんのご理解ご協力をお願い申し上げます。

皆様の健康をお祈り申し上げます。

2009年 年頭に向けての取組

製造、営業統括マネージャー 二丹 路雄

2008年を振り返ってみると上期は食品事故、食品偽装問題、原油高による穀物高、食糧危機問題(食糧自給率39%)等の問題が起こりました。

下期は、アメリカのサブプライム問題を機に円高ドル安が進み、日本の主な輸出企業の業績悪化、これに伴い雇用問題、リストラ、所得への影響が起き、デフレ経済が更に進んでいます。

一方国民の可処分所得は回復する見込みが無く、社会保障費のアップ、先々消費税のアップが考えられ更なるデフレ経済が進むと思われるます。

2009年を迎え今後製造、営業、店舗として達成しなければならぬ事、今後各スーパーは、デフレ経済の中、特売品若しくは定番価格の見直しを行ってくると思われ、競争力が今まで以上に厳しくなると思います。

食肉としては、2009年は今まで以上に消費者顧客ニーズに合った商売を行って行かなければならないと思います。実はこれが一番難しい問題なのです。

消費者顧客ニーズとは、安心安全なものを少しでも安く購入したい。その中でどうやって国産、産直

地産地消を行っていくのか。

2007年、2008年食肉は少しでも売上げアップで上がってきていたが、各部門の問題点を考えると、先ほど言った消費者、顧客の目線で商売を行っていかなければ、食肉の売上げも減少し、これを放置するといずれリストラを行っていかねばならないほど厳しい状況にあると言つ事なのです。

現に京都生協への売上げは減少すると思われ、営業も価格競争になっていきますし、これがパック販売の減少の影響を与えていると思います。店舗については駅前店の閉鎖による売上げダウンや2008年11月、12月の売上げを見ると減少傾向にあります。デフレの影響有り、今後深刻になっていくと思われま。

このよつな社会状況の中で、食肉といたしましてはより中間コスト(製造コスト)を下げ、この競争に打ち勝つていかねばなりません。その為には、職員嘱託、パートを含めた全従業員一人一人が真剣に業績の事を考えコスト削減に取り組んで無駄を無くしていかねばなりません。マネージャに任せただけではなく、各部門で真剣に話し合い実行していかねば、業績悪化につながり、いずれリストラを行わなければならぬと思つ事。

第1製造 歩留りのアップ

カット技術の向上、全員でコスト意識を持つ。

第2製造 商品力のアップ

作業効率のアップ、製造量のアップ。経産牛の貼り付け単価の設定使用目的に合った原料の使用の徹底歩留りのアップ全員でコスト意識を持つ。

第3製造 原料価格から店舗売価

の見直し使用原料の徹底新商品の開発。全員でコスト意識を持つ。

第4製造 商品力のアップ(トリップの問題)売上げのアップ全員でコスト意識を持つ。

製造部については、今後更なる価格競争が厳しくなる中でより一層のコスト削減に全員で取組む事。部内での会議の徹底(使用原料の徹底を今後図る事。営業、原料価格の見直し(株美歎との話し合い)より早い情報の共有化(他メーカーの価格情報など)全員で新規取引先の開拓し、売上増加を行う事。テロック肉、加工品肉(株マルイ、サンマートへの深耕販売、アスパルを中心とした西部地区への販路拡大、ギフト商品の新しい取組、全員でコスト意識を持つ。(燃料費等削減に徹底する事)商品管理、冷蔵庫の整理整頓の徹底食品事故を起こさない為のルール設定を早急に行つ事(マニュアル化していく事)京都 原料価格の見直し(株美歎との話し合い)納品価格の見直し 京都プロダクトとの情報を密に行つ(岡本リーダーの活用)

近畿事業連への取組(畜産牛への取組)新規取引先の開拓。

営業部については、原料価格の見直しを行わない。新規取引先の開拓、深耕販売を徹底して全員で行っていきます。(部内会議の徹底)店舗部 集客力のアップ(消費者をいかにして満足させるか)店舗価格の見直し、新規テナントへの参加。(売上アップ)

惣菜コーナーの充実拡販、全員でコスト削減、全員でロス率の発生原因の究明と改善を行う事。

店舗部においては、いかにお客様を満足させるか、大きな問題です。この点について各店舗で全員で話し合い、決まり事を徹底して守る事を今後行っていく事。

以上、2009年度の各部門の取組です。

社会状況がデフレ経済の中で、今までに無い業績悪化が考えられる中、全員でこの状況を乗り越えていかねばならないと思つていきます。そして消費者視点、顧客満足組合員満足、従業員を守る事に全力で取り組んでいきます。



新年明けまして

おめでとうございます。

（株）東部コントラクター

専務 遠藤憲明

昨年は、飼料の高騰に始まり原油の高騰など私たちの取り巻く環境は大変な一年でした。

コントラクターとしても18年の12月から株式会社として活動してきて実質2年が経ち、自給粗飼料の生産拡大という組合員の皆さんにかかわる重要な課題に取り組んできました。

その中でも、飼料稲については8年目を迎え生産面積は106haとなり、品質・量ともに安定的なものが供給できるようになってきて利用農家も増えてきました。しかし栽培・収穫体制ともまだまだ課題は残っています。

他の自給粗飼料の取り組みについても耕種側・畜産側とコントラクターで作業の役割を明確にして取り組みを強化していくことが必要になってきています。

そして、耕作放棄地に関しても現在調査がなされており主食用米・飼料作物（飼料稲、飼料用米他）水田放牧といった観点から水田のフル活用に協力していきたいと思っています。

これから、畜産・農業の発展のためにコントラクターとしても一丸となって組合員の皆さんと一緒に

考え、ともに汗をかき、いろいろなものを作っていくたいと思っています。ですので今年度もご指導の方よろしくお願いいたします。

新年明けまして

おめでとうございます。

営業部 生協担当マネージャー兼

総務事務管理部マネージャー

山本幸男

2009年度は、「発信の年」としたいと考えます。鳥畜としては、新しいホームページを作成中で、新年度早々には開設できる見込みです。

鳥畜全体取り組み・・・飼料・環境・食料の安全性等、店舗（わかば・パオ・バーベキューハウス）を中心とした出来事、催を、日本全国に発信したいと思えます。尚、2月にはISOに関する本が出版され、その中の一部に鳥畜としての取り組み報告（思い）が掲載されるので、是非読んで頂きたいと思えます。

発信するということは、それに対する対応（受ける）も出来る体制を取らなければいけないということとを、肝に銘じて取り組みます。

年頭あいさつ

生産事業部マネージャー

遊佐琢男

新年あけましておめでとうございます。昨年は輸入品目が高騰した年でありました。

輸入にたよる日本の酪農危機の状況でした。あげれば配合飼料、粗飼料、燃油等により資材費が上がることに伴い経営の危機となり、自給飼料確保が増えつつあります。国の政策により経営安定対策が講じられましたが、畜産経営はいっこうに楽にはならなかった年ではなかったかと考えられます。

今年が牛の年です。牛の様にゆっくりと歩んではどうなのか考えては、今の世の中スピードの時代ですが雄大な心で一年過ごすことも大事な年と考えておるところです。

昨年、後半以降時間の流れに乗り遅れた感があり、組合員さんには大変ご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。牛は動きは遅いのですが危機感により迅速な動きをします。

私達、生産事業部職員は迅速かつ組合員一人一人に伝えるため、組合運営、組合員との緊密な関係づくりの強化を図って共に良い年にしてゆきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

年頭あいさつ

店舗統括リーダー 井殿雅文

新年明けましておめでとうございます。旧年中はとりちく店舗事業に格別のご高配を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

昨年は中国産キョーザの薬物混入や、工業用輸入米を食品に流用した事故米騒動、さらには中国産うなぎを国産品として販売した産地偽装問題など、食品にまつわる事件が相次いで起こりました。

「地産地消」と安心「安全」を実践する当組合においては追い風となった感がありましたが、米金融業界の危機に端を発した不況の風は日本国内でも雇用問題など大きな爪跡を残しています。消費の冷え込みから牛肉の販売が不振となっておりますが、今こそ「地産地消」と「安心・安全」を前面に押し出し、「とりちくの直売所で買う牛肉がいちばんだ」と消費者にご満足いただけるようスタッフ一同団結して取り組む所存です。

本年もとりちく店舗を「愛顧」ご支援くださいますようお願い申し上げます。

若葉台小学校もちつき

6月に田植えをし、10月に稲刈りをして収穫したお米60Kで12月11日に若葉台小学校の5年生の子ども達、先生方、保護者の方々、生産者のお母さん方、環境大学の学生さん、東部コントラクターの職員と一緒に収穫祭をしました。

5年生の子ども達は蒸したてのもち米を食べさせてもらって、おいしいと言っても幸せそうに食べていました。もちつきを順番にして次にもちを揉んでいました。上手に揉んでいる子など様々でしたが、楽しんで作業をしていました。できたおもちを砂糖醤油、きなこで味付けして、4年生の子ども達の作った大根のつけものを頂いて、とてもおいしかったです。

最後にお手伝いしてくださった生産者のお母さん方、環境大学の学生さん東部コントラクターの職員の方々大変お世話になりました。ありがとうございました。



鳥畜もちつき大会

毎年恒例の鳥畜もちつきが12月30日(火)午前10時よりフレッシュパーク若葉台で開催されました。寒い日だったのでなかなかお客様もきてくれないかも、と心配していましたが、あたたかい日差しも射ってきて、良い天気でした。

80キロのもち米で普通の白いもちと栃もち、めずらしい紫いものもちの三種類を搗いて、販売しました。搗き立てのモチは柔らかくとても弾力があり、そのまま何もつけずに食べてもおいしかったです。また私事で申し訳ないですが、もちつきを小突きが終わってから最後までがんばり、途中酸欠で倒れるかと思いましたが、なんとか搗く事が出来ました。一日でこの状況ですから、お手伝いをしてくださった組合員の方々、東部コントラクター職員の方々本当にありがとうございました。二日後の筋肉痛が恐ろしいです。



12月の主な日程

日付	行事
12月 1日	夕礼
12月 5日	東部座談会
12月10日	西部座談会
12月11日	若葉台小学校もちつき
12月12日	中部座談会
12月15日	臨時総会・理事会
12月30日	鳥畜もちつき

1月の主な日程

日付	行事
1月 5日	初詣（意上奴神社）
1月7,8日	I S O更新審査
1月20日	I S O全体集会
1月20日	食肉委員会
1月21日	総務委員会
1月23日	生産委員会
1月29日	理事会

臨時総会・理事会開催報告

開催日: 12月15日(月)

臨時総会: 午前11時30分から
第1号議案 2008年度 施設設備計画について

上記の議案が議決されました。



理事会: 臨時総会終了後12時から

協議事項

- 協議事項(1) 11月実績報告
- 協議事項(2) アスパル店について
- 協議事項(3) 施設設備(機械)購入について
- 協議事項(4) 役員報酬について
 - ・支払い方法
 - ・支払日

追加協議事項

- (1) 西部哺育センター建設について

お問い合わせ先

鳥取県畜産農業協同組合

住所: 鳥取市若葉台南7丁目108-12

Tel: 0857-52-1129

Fax: 0857-52-1131

e-mail: info@torichiku.or.jp

HP: <http://www.infosakyu.ne.jp/toriciku/>

あけましておめでとうござい
す。今年もとりちくだよりをよ
しくお願いいたします。2008年は皆
さんにとつてどんな年だったでしょ
うか? 私にとつてこの年は初めての
経験が多くいそがしい年でした。
1番の転機はとりちくとの出会
いそして就職できたことだと思
います。早いもので3ヶ月弱経過しま
した。驚きと戸惑いばかりでいろ
ろご迷惑おかけしました。2009
年は1日も早く仕事に慣れ、迷惑
をかけないよう努力していきたいと
思っています。未熟な編集部で至ら
ない点も多々ある事と思いますが、
ご指導の程よろしくお願い致しま
す。

編集後記